



記憶より
記録で
「ながく」
伝承

津波が来たあかしや復旧・復興の考え方を現地の目に触れる箇所に記録することにより、ながく伝承します。

津波浸水表示板の設置

地域住民が常に目に付く身近な施設等に、東日本大震災の津波浸水高さを現地表示することで、実物大のハザードマップとして、地域住民へ今後発生しうる災害への備えを促し、防災意識の啓発を図りました。

また、地域住民だけでなく、その場所を訪れている観光客等にも注意喚起を行うことができ、有事の際の避難行動を起こすきっかけに結び付き、さらに、東日本大震災の記憶を風化させず、後世に伝える“しるべ”にもなっています。

県内320箇所に399枚設置し、現在は維持管理を行っています。



震災遺構・中浜小学校（山元町）



※設置場所によりデザインが異なります。

3.11東日本大震災伝承板の設置

復旧前後の写真や海岸等堤防の高さの考え方等を現地に表示することで、震災の記憶の風化防止、また、今後発生しうる災害に対する迅速な避難行動の啓発を図りました。

その価値が認められ、国土交通省の“震災伝承施設”として登録されています。

県内9箇所に設置しました。



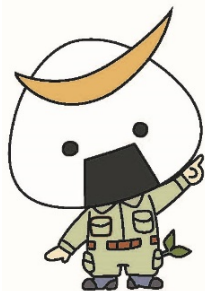
中島海岸・小泉海水浴場（気仙沼市）

みやぎ減災県土デジタルアーカイブの構築

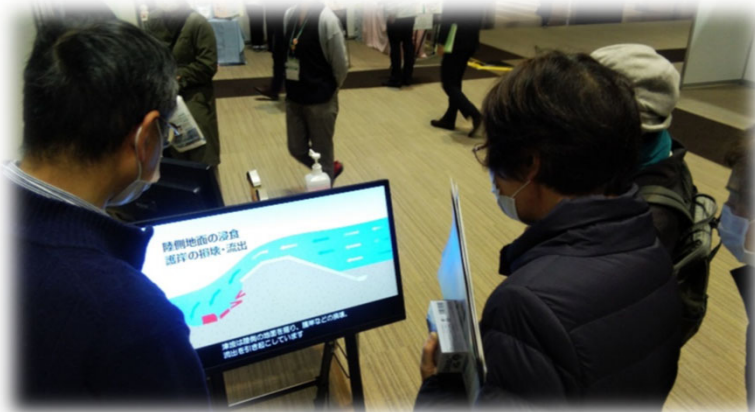
本県土木部に蓄積されている東日本大震災に係る資料を収集・整理し“みやぎ減災県土デジタルアーカイブ”を構築しました。

今後は、震災関係資料のデータベースを外部へ発信することで、初動対応訓練や復旧・復興施策立案等に活用していただき、行政機関の防災対応力向上に貢献していきます。

また、記録映像を防災教育等へ活用することにより、世代を越えて、多くの人々へ震災教訓伝承と防災意識啓発を図っていきます。



震災関連資料及び記録映像等はこちらをスマートフォン等で上記のQRコードを読み取ってご覧ください。
(東日本大震災アーカイブ宮城)



記録映像等の上映（仙台防災未来フォーラム）

